



## ○自治体との連携

【各種委員並びに講師派遣】自治体等の要請に応え、大学・短大教員が各種委員会の委員として委嘱され、また、研修会・講演の講師として派遣が行われ、学識経験者として諸提言を行っている。

### 【郡山市との連携】

平成 21 (2009) 年 3 月に本学は、郡山市こども総合支援センター「ニコニコこども館」実施事業に関して連携協定を締結した。同館において実施される子どもや子育て家庭への支援事業への協力を行う。具体的には、同館コンサートにおいてのハンドベル演奏、「ニコニコこども館まつり」(劇やオペレッタ・リズムあそび等の上演)等のボランティア活動等を行っている。

### 【本宮市との連携】

平成 21 年 (2009) 10 月に本学は、本宮市と「本宮市民元氣いきいき応援プラザ「えぼか」事業」連携協定を締結した。これは、健康増進・子育て支援・多世代交流機能の拠点として開所した本宮市民元氣いきいき応援プラザ(えぼか)で実施する支援事業に、本学が教員・学生を派遣して協力しているものである。

これらの経過を踏まえ、平成 28 (2016) 年 11 月に本宮市と人材育成や人材確保、幼児教育・文化・芸術等、健康・福祉の増進、定住・人口増対策、その他必要な分野の 5 項目について包括連携協定を締結した。

大学人間生活学科(現 生活科学科)による高齢者への支援活動「本宮市高齢者いきいき交流事業」が「あぶくま憩の家」を活動施設として行われている。また、短大幼児教育学科が「本宮市民元氣いきいき応援プラザ(えぼか)」において子育て支援事業を行っている。

### 【葛尾村との連携】

平成 27 (2015) 年から当時の短大生活芸術科が村のマスコットキャラクターの制作等を通し、同村に協力を行ってきた。平成 28 (2016) 年 12 月に本学は、葛尾村と生活全般・食品・福祉・幼児教育・文化・芸術・地域振興、人口減少期における地域の持続的発展、本大学・短大の研究・教育・技術開発活動の実施、その他必要な事項の 4 項目について包括連携協定を締結した。具体的には、短大健康栄養学科では、大学と共同で地元の農地を借りて、「女子大農場」のネーミングで、地元産のオヤマボクチの研究栽培を行ってきた。大学食物栄養学科では、「女子大農場」において地元特産品のエゴマの研究栽培を行っている。両学科とも地元特産品を六次化商品として開発することで、地元農家の収入の安定化を図り、1 人でも多くの村民の帰村を促し 1 日でも早い復興を願うものである。また、短大の幼児教育学科、地域創成学科教員が村内の無形民俗文化財の調査を継続して実施してきた。



### 【小野町との連携】

平成 29（2017）年 8 月に本学は、小野町と子育て、人材育成・人材確保、健康栄養及び福祉の増進、食の安全確保・食品開発、地域創成、その他必要な分野の 6 項目について包括連携協定を締結した。活気にあふれ、安全で安心して生活できるまちづくりを協力して進めている。

大学人間生活学科（現 生活科学科）が町の地域創生政策の立案において協力を行った。短大幼児教育学科では、小野わかば幼稚園の園児を対象とした、「おのまちわかば探検隊」の体験学習会を継続して実施している。

### 【古殿町との連携】

平成 30(2018)年 8 月に古殿町と地域創成、健康栄養及び福祉の増進、子育て、地域産業の振興、芸能・文化の向上、人材育成・確保、その他必要な分野の 7 項目について包括連携協定を締結した。地元農産物を生かした六次化商品の開発など食に関することを中心に、同町の地理、歴史、文化的な背景を生かした地域復興に共に取り組んでいく。

令和元（2019）年度から取り組みが具体化し、大学人間生活学科（現 生活科学科）、食物栄養学科においては、同町公民館主催行事に協力を行い、また、大学食物栄養学科は地元農産物を生かしたレシピの考案に取り組むとともに六次化商品の開発をめざしている。短大健康栄養学科においては、同町公民館主催の「料理教室」の講師として教員が町民へ指導を行い、地域創成学科は「チェンソーアート文化祭」の運営に協力を行ってきた。

### 【鏡石町との連携】

令和 2（2020）年 2 月に鏡石町と食と健康の分野に関する連携協定を締結した。町内の高齢者を対象とした食事と栄養に関する調査を実施し、食生活等の改善策の提案、町内の小中学校との食分野の連携を行っている。



## ○産業界との連携

### 【企業への協力】

学科の特性を生かし、食物関係の学科を中心に若い感性を発揮し企業からの依頼に応えてきた。特定分野への協力要請、6次化商品開発への研究委託が行われるようになっている。今後も引き続き食分野に限らずに要請に応じていく。

### 【福島さくら農業協同組合との連携】

食物関係学科を持つ本学と農業協同組合との関係は深く、食と農の分野で様々な取り組みを行ってきた。平成28(2016)年3月、県内5つの農協が合併し福島さくら農業協同組合が誕生した。これを機に、同年8月に本学は、福島さくら農業協同組合と包括的連携協定を締結した。原発事故による県内農産物の風評被害の払拭とともに、農産物の振興、教育・人材育成、食文化の振興、健康・福祉の振興、その他必要な事項の5項目に関して協力を行っている。

具体的には、大学食物栄養学科では地元ブランド米「あさか舞」を使ったお弁当レシピを考案し、実際に弁当として販売された年もある。短大健康栄養学科では、田植えや稲刈りに参加しており、また、学内の屋上菜園において野菜の栽培について専門的な指導を受けている。短大地域創成学科では、ここ数年間継続して農協の農業施設の壁面に壁画制作を行い、食への関心、農業へのイメージアップの協力を行っている。

また、本学では62年館屋上に菜園を設置しているが、福島さくら農業協同組合の寄附講座として、定植―生育―収穫の一連の過程で食物関係の学生、教職員が営農指導員による指導を受けている。

### 【福島民報社との連携】

平成29(2017)年2月に本学は、福島民報社と連携協力協定を締結した。新聞等を活用したキャリア教育の支援、地域課題等に関する共同調査及び研究、人材交流及びインターンシップの実施、教育研究のための新聞記事情報の活用支援、その他必要な事業の5分野において連携協力を行っている。また、地域社会への本学の情報発信の一部を担っている。